八千代市内県立高校の生徒と先生がおすすめする本 2023年版　No.1

No.	目次	書　名	著者名	紹介者	所属
1	アオ	アオハル・ポイント	佐野 徹夜	KOMENO	八千代
2	アツ	AX	伊坂幸太郎	SATO	八千代
3	アノ	あの愚か者にも脚光を！	昼熊	NAKAGAWA	八千代
4	アノ	あの日、君は何をした	まさき としか	ITO	八千代
5	アノ	あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら	汐見 夏樹	YAMAMOTO	八千代
6	アメ	天久鷹央の推理カルテ	知念 実希人	MISONO	八千代東
7	アリ	アリクイのいんぼう	鳩見すた	KANAMARU	八千代西
8	イツ	一瞬の風になれ	佐藤 多佳子	WATANABE	八千代
9	イツ	いつか、眠りにつく日	いぬじゅん	YACHIDA	八千代西
10	イン	隠蔽捜査	今野敏	KANEKO	八千代西
11	エク	エクソフォニー	多和田葉子	ISHII	八千代西
12	オオ	大谷翔平86のメッセージ	児玉光雄	SAITO	八千代西
13	オキ	掟上今日子の備忘録	西尾 維新	MASUMOTO	八千代
14	オト	お隣の天使様にいつの間にか駄目人間にされていた件	佐伯さん	OOISO	八千代
15	オレ	俺ではない炎上	浅倉秋成	NAKAMURA	八千代東
16	オン	オン・ザ・ライン	朽木 祥	ONAGI	八千代
17	カク	覚悟の決め方	上原浩治	MURAKOSHI	八千代西
18	カゼ	風が強く吹いている	三浦 しをん	OKIYAMA	八千代
19	カメ	仮面病棟	知念 実希人	GOTO	八千代
20	カン	感じる科学	さくら 剛	TACHIHARA	八千代
21	キミ	君はきっとまだ知らない	汐見 夏樹	TADAISHI	八千代
22	キミ	きみはだれかのどうでもいい人	伊東 朱里	SAITO	八千代
23	キミ	君の膵臓を食べたい	住野 よる	HASHIZUME	八千代
24	キヨ	教養としての10年代アニメ	町口 哲生	ASADA	八千代
25	ギヨ	漁港の肉子ちゃん	西 加奈子	HYUUGA	八千代
26	キラ	嫌われた監督	鈴木忠平	ISOGAYA	八千代西
27	キリ	麒麟の翼	東野圭吾	TUKADA	八千代西
28	クウ	空想科学読本	柳田 理科雄	HIRAKAWA	八千代
29	クス	薬屋のひとりごと	日向 夏	YAMAMOTO	八千代
30	コイ	恋に至る病	斜線堂 有紀	IWAI	八千代
31	コイ	恋文の技術	森見登美彦	SHIBA	八千代東
32	コク	告白	湊 かなえ	SATO	八千代
33	コク	国際秩序	細谷 雄一	NAKAGAWA	八千代
34	ココ	心を整える	長谷部 誠	HUZII	八千代
35	コジ	52ヘルツのクジラたち	町田 そのこ	SHIBATA	八千代
36	ゴフ	5分後に意外な結末	桃戸 ハル	SORITA	八千代
37	コン	今夜、世界からこの恋が消えても	一条岬	TUTIYA	八千代西
38	サピ	サピエンス全史	ユヴァル・ノア・ハラリ	YAMAZAKI	八千代西
39	ザリ	ザリガニの鳴くところ	ディーリア・オーエンズ	SEKI	八千代
40	サン	三千円の使い方	原田 ひ香	SAITO	八千代
41	シカ	鹿の王	上橋 菜穂子	NAGAO	八千代
42	シケ	死刑にいたる病	櫛木理宇	TANAKA	八千代西
43	シタ	下町ロケット	池井戸 潤	INOUE	八千代
44	シニ	死にがいを求めて生きているの	朝井 リョウ	NAKASHIMA	八千代
45	シニ	死神の精度	伊坂幸太郎	HUZIDA	八千代西
46	シボ	死亡フラグが立ちました！	七尾　与史	HATAKEYAMA	八千代
47	ジユ	十角館の殺人	綾辻　行人	MIWA	八千代
48	ジユ	十角館の殺人	綾辻　行人	YAMAMOTO	八千代東
49	ジユ	柔道にはなぜ黒帯があるの？	稲垣正浩	KONTA	八千代西
50	ショ	少年探偵団	江戸川　乱歩	DAIBO	八千代
51	ジヨ	常設展示室	原田マハ	HASHIMOTO	八千代西
52	シロ	白銀の誓い	リンゼイ・デイヴィス	AKIYAMA	八千代東
53	シン	新十二歯考	田畑　純	NIMURA	八千代
54	シン	「新型コロナ」「EV・脱炭素」「SDGs」の大ウソ	武田邦彦	OOHIRA	八千代西
55	スイ	すいかの匂い	江国香織	NAKANO	八千代西

＊ 所属は2023年3月末日のものです。現在の所属とは異なる場合もあります。

八千代市内県立高校の生徒と先生がおすすめする本 2023年版 No.2

No.	目次	書　名	著者名	紹介者	所属
56	スト	ストラヴァガンザ	メアリ・ホフマン	KOMURO	八千代西
57	セイ	正欲	朝井 リョウ	MOTIZUKI	八千代
58	セカ	世界を変えた本	マイケル・コリンズ	TAKASE	八千代
59	ソダ	「育ちがいい人」だけが知っていること	諏内えみ	OOISHI	八千代西
60	タス	タスキメシ	額賀　澪	HUZINAGA	八千代
61	チキ	地球の長い午後	B・W・オールディス	KATO	八千代
62	チジ	地上最強の男	百田尚樹	HASEGAWA	八千代西
63	チユ	中国化する日本　日中「文明の衝突」一千年史	與那覇 潤	UDAGAWA	八千代東
64	チン	沈黙	遠藤　周作	NAGATOMI	八千代
65	ツキ	月の立つ林で	青山美智子	KUDO	八千代東
66	デザ	デザイナーのための折りのテクニック	ポール・ジャクソン	NISHIKAWA	八千代西
67	ドア	ドアD	山田　悠介	KOUSAKA	八千代
68	トシ	図書館の魔女	高田　大介	OOHIRA	八千代
69	ナツ	夏、19歳の肖像	島田荘司	N	八千代西
70	ナミ	ナミヤ雑貨店の奇蹟	東野　圭吾	MAEDA	八千代
71	ナミ	ナミヤ雑貨店の奇蹟	東野　圭吾	NAKAYAMA	八千代
72	ナル	ナルニア国物語	C・S・ルイス	HASIMOTO	八千代西
73	ネム	眠れなくなるほど面白い社会心理学	亀田達也	IIZUKA	八千代西
74	ノウ	脳が壊れた	鈴木　大介	YAMAZAKI	八千代
75	ハウ	ハウルの動く城	D・ウィン・ジョーンズ	MASHIKO	八千代東
76	ハマ	浜村渚の計算ノート	青柳　碧人	YABE	八千代
77	ハリ	ハリーポッターシリーズ	J.K.ローリング	TAIRA	八千代
78	ハル	春の雪	三島由紀夫	EZAWA	八千代西
79	ハン	反応しない練習	草薙龍瞬	KONISHI	八千代西
80	ヒト	「人それぞれ」がさみしい　「やさしく・冷たい」人間関係を考える	石田　光規	ASADA	八千代
81	ヒト	人は話し方が9割	永松茂久	HIRANE	八千代東
82	ヒニ	否認	堀田力	OKUYAMA	八千代西
83	フル	古畑任三郎	三谷　幸喜	TACHIHARA	八千代
84	ボク	ぼくはイエローでホワイトでちょっとブルー	ブレイディ　みかこ	KUMAMOTO	八千代
85	ホシ	星の王子さま	サン・テグジュペリ	TAKAHASHI	八千代
86	ボツ	坊っちゃん	夏目漱石	UZAWA	八千代西
87	ボブ	ボブ・ディラン全詩302篇	ボブ・ディラン	OGAWA	八千代西
88	ホン	本好きの下剋上	香月美夜	YAMASHITA	八千代東
89	マキ	牧野富太郎の恋	長尾　剛	KOBAYASHI	八千代
90	マメ	豆の上で眠る	湊　かなえ	NAKAGAWA	八千代
91	マヨ	真夜中乙女戦争	F	MAEDA	八千代
92	マン	満月珈琲店の星詠み	望月　麻衣	ZYODA	八千代
93	マン	万引き家族	是枝裕和	MORIKI	八千代西
94	ミツ	三日間の幸福	三秋　縋	TYUUMA	八千代
95	ミツ	密室黄金時代の殺人	鴨崎暖炉	MATUMOTO	八千代西
96	ミノ	身のまわりのありとあらゆるものを化学式で書いてみた	山口悟	ISONO	八千代西
97	モク	木曜日の子ども	重松　清	AOKI	八千代
98	モク	木曜日にはココアを	青山美智子	MATUMOTO	八千代西
99	モモ	モモ	ミヒャエル・エンデ	UEHARA	八千代
100	モモ	モモ	ミヒャエル・エンデ	IKEZAWA	八千代西
101	ユタ	ユタと不思議な仲間たち	三浦　哲郎	TOMITA	八千代
102	ユメ	夢をかなえるゾウ0	水野敬也	O	八千代西
103	ユメ	夢をかなえるゾウ4	水野敬也	ITABASHI	八千代東
104	ヨウ	八日目の蝉	角田光代	EBIHARA	八千代西
105	ヨメ	余命10年	小坂　流加	OGIWARA	八千代
106	リユ	流星の絆	東野　圭吾	TAKAGI	八千代
107	リン	臨床の砦	夏川草介	YOSHIUE	八千代西
108	レイ	冷静と情熱のあいだBlu	辻仁成	MATUMOTO	八千代西
109	ロク	六人の嘘つきな大学生	浅倉秋成	KURATA	八千代西
110	ワタ	わたしはあかねこ	サトシン	W	八千代西

＊所属は2023年3月末日のものです。現在の所属とは異なる場合もあります。

1アオ

『アオハル・ポイント』
佐野 徹夜

人は容姿、学力、コミュ力などのあらゆる要素から決まる価値や点数に左右されて生きている。主人公の青木は、この〝ポイント〟が見え続けていたが、ある日突然見えなくなってしまう。すると、今までポイントに合わせて人と関わっていた彼は、自分の感覚が分からなくなっていった。

世間にとって価値のあるものが自分にとって価値のあるものだとは限りません。ポイントに囚われ、自信をなくしたり何かを諦めたことのある方に読んで欲しい一冊です。

KOMENO（八千代）

2アツ

『AX（アックス）』
伊坂 幸太郎

この本は伊坂幸太郎の殺しシリーズの最新作です。営業社員で裏の顔では、超一流の殺し屋〝兜（かぶと）〟は息子が生まれたことを機に殺し屋を辞めようとしましたが、殺し屋を引退するために高額な金を要求され、殺し屋をやめるために殺し屋をやっていました。彼が引退のために仕事をしていた時、意外な人物から襲撃を受けます。

SATO（八千代）

3アノ

『あの愚か者にも脚光を！』
昼熊

『この素晴らしい世界に祝福を！』の外伝。「このすば」の世界をアクセルの街を取り仕切る顔役（自称）のチンピラダストの視点から書いた本です。本編の裏話はもちろん、本編では書かれなかったアクセルの街のドタバタな日常や、名前が出て来なかったあの人達が面白可笑しく書かれている一方で、あの愚か者シリーズとしてダストの普段の日常や衝撃的な過去が書かれていて一つのシリーズとしても、とても面白い本になっています。本編を読んでから読むと、あの事件の裏ではこんなことを起こしていたのかと思える、二度美味しいような構成になっています。是非読んでみてください。

NAKAGAWA（八千代）

4アノ

『あの日、君は何をした』
まさき としか

２０１９年、若い女性が自宅で殺害され、容疑者の男も行方不明となる奇妙な事件が起こった。これを担当することになったベテラン刑事の三ツ矢と新人の岳人は、調べるうちに十五年前に起こったひとつの事故と関連を見出していく。その事故とは、深夜自転車に乗っていた男子中学生が連続殺人事件の容疑者と間違われて警察に追われ、事故死したというものだった。

被害者であり物語の鍵となる少年は、あの日何をしようとしていたのか。

ITO（八千代）

5アノ

『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら』
汐見 夏樹

親や学校、すべてにイライラした毎日を送る中2の百合。母とケンカして家を飛び出し目を覚ますとそこは七十年前、戦時中の日本だった。偶然通りかかった彰に助けられ、彼と過ごす日々の中、百合は彰の誠実さと優しさに惹かれていく。しかし、彼は特攻隊員でほどなく命を懸けて戦地に飛び立つ運命だったー。のちに百合は、期せずして彰の本当の気持ちを知る…。涙なくしては読めない、怒涛のラストは圧巻。

YAMAMOTO（八千代）

7アリ

『アリクイのいんぼう』
鳩見 すた

皆さんは本を選ぶ時、どんな理由で選びますか。作者が好き、表紙がきれいなど様々な理由がある中で、タイトルに魅かれてという場合も少なくないと思います。この本はまさしくそれでした。『アリクイのいんぼう』って、いったい何を企んでいるんだ？アリクイは…。そう思うと、もう中身が気になってしかたがありません。サブタイトルも読まずにすっ飛ばして表紙をめくって下さい。そうすれば、あなたも『いんぼう』にハマるはずです。

KANAMARU（八千代西）

6アメ

『天久鷹央の推理カルテ』
知念 実希人

統括診断部。天医会総合病院に設立されたこの特別部門には、各科で「診断困難」と判断された患者があつめられる。

暗い池の底から現れた河童、夜中の院内で人魂を見たと怯える看護師。いないはずの赤ちゃんを身籠ったと叫ぶ女子高生。この三つの不思議な「事件」には思いもよらない「病」が隠されていた。

そんな摩訶不思議な〝謎〟を統括診断部に所属している内科医見習い。小鳥遊優と頭脳明晰、博覧強記の天才女医天久鷹央が解き明かす。

医療ミステリー初心者でも詰まることなくスラスラ読める、新感覚メディカルミステリー。

MISONO（八千代東）

8イツ

『一瞬の風になれ』
佐藤 多佳子

天才サッカー選手の兄を持ち、自分もサッカーでともに競いたいと夢見ていた神谷新二。兄と同じ高校への編入も叶わず好きだったサッカーは行き詰る日々。幼馴染である一之瀬連と春野台高校に入学し二人は陸上部に入部する。ぐうたらだが人一倍優しくて情熱的な顧問の三輪先生ことみっちゃんや、走るために生まれてきたかのような走りの天才・連。遅いけどひたむきに走る谷口若菜など、たくさんの人との出会い、新しい自分との出会い。出会い、発見、実践、挑戦が颯爽と過ぎていく〝風〟のような物語。

WATANABE（八千代）

9 イツ

『いつか、眠りにつく日』
いぬじゅん

ある日突然、大切な人たちがこの世からいなくなったら。誰もが予期しない鬼気迫る状況を、主人公の蛍は身をもって体験する。友人と恋人の深い溝を見つめる蛍のありのままの姿や、死から生への心の揺らぎが巧みに表現されている。後悔、未練、悲しみといった言葉で表されるネガティブな感情が、最終的に蛍の生きていく力に転化されているところも味わい深い。ごめんねは大好きの裏返しという作中の一節には、とても共感できた。

YACHIDA（八千代西）

10 イン

『隠蔽捜査』
今野　敏

主人公は竜崎伸也というキャリア官僚。警察庁長官官房総務課長として辣腕を奮っていたが、家族の不祥事により異動。しかし腐ることなく、仕事における原理原則を貫き、合理性を追求する。今でいう忖度等が一切ない仕事ぶりは、爽快である。本人が何故キャリア官僚になったか？それは偉くなりたいからでなく、仕事におけるあらゆる権利を行使することにより、国家公務員としての仕事が追求できるから。ねじ曲がったエリート意識はなく、特権と共に多くの義務も付きまとうと本気で考えている。警察は階級社会であるから、上司の命令には絶対服従。竜崎の階級を知らず、単に所轄の所長であろうと接してきた者が、あえなく論破され、返り討ちに合う様は、読んでいて痛快であり、かつての水戸黄門のようである。そんな毅然とした主人公であっても、実のところ「俺はいつも揺れ動いている。ただ迷った時に原則を大切にしようと努力しているだけだ」という台詞は、仕事に向かう姿勢として大変参考になるものである。

KANEKO（八千代西）

11 エク

『エクソフォニー』
多和田　葉子

エクソフォニーとは「母語の外に出た状態」という意味です。著者の多和田葉子は、ドイツで執筆活動を行っている芥川賞作家です。彼女は、日本人がドイツで、ドイツ語を使って文学作品を書くことで見えてくるものに興味を持っています。どれほどドイツ語に熟達しても、ドイツ人から不自然でぎこちない表現だと指摘される場合があります。彼らにとって音声的に何でもない響きが、日本人にはとても滑稽な音に聞こえることもあります。彼女はそうした発見を面白がり、自らの創作活動にフィードバックしています。この本は、そんな彼女がヨーロッパを中心とした多くの都市を訪れ、それぞれの土地の言語について感じたこと、気づいたことなど書き留めたエッセー集です。

ISHII（八千代西）

12 オオ

『大谷翔平 86 のメッセージ』
児玉　光雄

花巻東高校時代から「二刀流」として日本中の注目を集め、現在は日米でその名をとどろかせているMLB・エンゼルス所属の大谷翔平選手。

この本では、あらゆる場面での心がまえやモチベーションを保ち続ける方法、目標や人生の選択について大谷選手の言葉を紹介している。さらにスポーツ心理学者がそのすごい成果をあげる心理をわかりやすく読み解いています。大きな夢を実現するためのヒントがつまっていると思います。

SAITO（八千代西）

13オキ

『掟上今日子の備忘録』
西尾 維新

「今日子さんには、今日しかない。」掟上今日子…またの名を「忘却探偵」一度寝ると記憶がリセットされてしまうため守秘義務は絶対厳守！どんな事件も一日で解決してしまう最速の名探偵。そんな彼女に惚れてしまった究極の巻き込まれ体質で常に容疑をかけられてしまう隠館厄介は今日も叫ぶ。「探偵を呼ばせてください!!」どんなに仲良くなっても次の日には完全に忘れられて「初めまして」と言われてしまう切ない恋模様にも注目だ。

MASUMOTO（八千代）

14オト

『お隣の天使様にいつの間にか駄目人間にされていた件』
佐伯さん

藤宮周の住むマンションの隣には、学校一の美少女・椎名真昼が住んでいる。特に関わり合いのなかった二人だが、雨の中ずぶ濡れになった彼女に傘を貸したことから、不思議な交流が始まった。素っ気なくも可愛い隣人との甘く焦れったい恋の物語。最初は二人とも素っ気なかったのに徐々に心を開いていき、いつしか惹かれていく。この感情と関係の移り変わりに注目です。勉強の息抜きに癒されてみてはいかがでしょうか。

OOISO（八千代）

15オレ

『俺ではない炎上』
浅倉 秋成

あなたは日本中で、いや世界中で有名になりたいと思ったことはありませんか？誰かに注目されたい、すごい！てネットで騒がれてみたい。その承認欲求が、ひとつの事件を気づかないうちに肥大化させてしまっていることだってあるんです。

ある夜に見つけたSNSの投稿。その投稿を見たのは、まだ三十人にも満たない。

「今、俺がリツイートしたら…？」

浮上した容疑者は、ごく普通のサラリーマン。知らないところで、自分の名前のアカウントで投稿が作成されて…。え？なんで？いわれのない罪によって、日本中から正義感に操られた人たちにおいかけられてしまう。どんなに人から逃げても、インターネットは見ている。

インターネットの怖さと、目の前にあるのに見えていなかったもの。私たちは何を大切にしていきていくべきなのか、考えさせられる作品です。

NAKAMURA（八千代東）

16オン

『オン・ザ・ライン』
朽木 祥

高校生活をテニス三昧で明るく過ごしていたある日、取り返しのつかない事故が発生。少年たちは自己を見つめ、自分の生き方を模索し始めます。熱い友情と避けがたい人生の悲しみなど、切ないほどにきらめく日々の物語です。

少年たちの学園生活を生き生きと描き出しながら、それだけでは終わらない感動を読者に与えてくれる、おすすめの本です。ぜひ読んでみてください。

ONAGI（八千代）

17 カク

『覚悟の決め方』
上原 浩治

軸がぶれずに雑草のように強く生きているのが伝わる。いい加減やけくそではなく、最大限の努力準備をしたうえで、自分を信じて覚悟を決める。また様々なアドバイスや指示を受けても最終的な責任は自分が持つ。他責にはしない。この点に共感を覚えた。野球中心の生活を行う為にルーティンをひたすら守り雑念を追い払うストイックな意思の固さ。本書では反骨心にも触れられていた。ジャイアンツに入団した理由と経緯やマスコミに対する当時の疑念も吐露されており、より上原さんの考えが理解できた。

MURAKOSHI（八千代西）

18カゼ

『風が強く吹いている』
三浦 しをん

「走るの好きか?」ある事件がきっかけで走る道をあきらめていた天才ランナー走（かける）は不思議な男ハイジに誘われ、青竹荘という今にもガタが来そうな年季の入った寮に入ることになる。そこは実はハイジが箱根駅伝を目指して集めた住民が住む場所だった。走は再び走り始める。そこで走は仲間との出会いにより自分の中で何かが変わり始めたのを感じた。「速く」ではなく「強く」。―「駅伝」って何?走るってどういうこと?箱根を走ることに費やした選手たちの軌跡を体験できる。ページをめくるごとに走ることの楽しさ、苦しさ、爽快感が胸の中を駆け抜ける。走ることが好きな人もそうでない人も読み終えたあときっと風をきって走りたくなる!

OKIYAMA（八千代）

19カメ

『仮面病棟』
知念 実希人

ピエロの仮面をつけた男がある病院を占拠する。そこに居合わせたのは犯人に撃たれて怪我を負った女子大学生と、一夜だけ当直するために病院にいた医者。果たして二人はそして六十四人の入院患者と職員は無事に帰れるのか、そしてピエロの本当の目的とは?

２００２年に映画化され、普段本をあまり読まない人でも読みやすく、読んでいる間はずっと最後までドキドキが止まらない作品です。

GOTO（八千代）

20カン

『感じる科学』
さくら 剛

最初に断りを入れておくと、この本はくだらない本です。光の動き、相対性理論、進化論といった真面目な内容を、この上なくくだらない例え話で表すことに重きを置いています。

しかしそれ故に、老若男女文系理系関係なくとっつきやすい内容に仕上がっています。タイムマシンの実現は可能なのか。テレパシーを人間が行うのはいつの話なのか。人間はこの先、どのように進化していくのか。

私たちが生きるこの世界の不思議について、少しだけ触れてみませんか。

TACHIHARA（八千代）

21キミ

『君はきっとまだ知らない』

汐見 夏衛

いじめの事実を隠す光夏だが、思い切ってうち明け前を向けるようになる。しかし、ある違和感に気づいた時、事態は急変する…。全ての真実を知った時、奇跡の光が降り注ぐ…。

弱さを認めることも強さの一つなんだろう。かつて自分が人を救ってきたように、自分が誰かに救われることもある。弱くてもいいんだ、そう思ったときに大切な人たちの愛と自分の命の大切さに気付かせてくれる作品。

TADAISHI（八千代）

22キミ

『きみはだれかのどうでもいい人』

伊東 朱里

〝共感度MAXの新感覚同僚小説〟という帯の文字が、心に刺さります。人と関わるのって、今でも難しいのに、一日中「どうでもいい人」と仕事をするなんてできるのか。今から不安ですよね。同じシーンでも立場や角度を変えるとこんなに見え方が違うのか！という疑似体験がとても新鮮です。

大人も心は複雑で、なんだか不器用なのだと気付いてしまうかもしれません。書名の『きみはだれかのどうでもいい人』が言い得て妙で、なかなか余韻が消えません。人間関係混迷小説です。

SAITO（八千代）

23キミ

『君の膵臓を食べたい』

住野 よる

ある日、高校生である主人公は、病院である一冊の文庫本を拾う。そのタイトルは「共病文庫」。それはクラスメイトである山内桜良が書いた、秘密の日記帳だった。そこには彼女の余命が膵臓の病気により、もう長くないと書かれていて・・・・。

映画化され、大ヒットを記録したこの小説は言わずと知れた大ベストセラー青春小説です。読んだことがない人はもちろん、ある人もこの機会に是非！

HASHIZUME（八千代）

24キヨ

『教養としての10年代アニメ』

町口 哲生

アニメ（マンガやドラマなど、娯楽？として楽しむもの全般）に対する偏見が、まだなくなっていないように思います。アニメで「教養」なんて…と思う人も結構いるんじゃないか…？しかし、視点を変えてみると、その作品の中には、表面的に鑑賞していたら気付かない哲学的テーマや、現代社会に潜む課題が描かれているのです。

アニメをよく見る人は学問的素養が、あまりない人も、面白く深みのある作品に出合うきっかけが得られます。姉妹本『教養としての10年代アニメ 反逆編』『平成最後のアニメ論』まで読み切れば、10年代の教養や思想の潮流を一通り眺められる点も魅力的。身近な作品を、自身の思考を広げるヒントとして、ぜひ読んで「観て」ください。

ASADA（八千代）

『漁港の肉子ちゃん』

西 加奈子

25キヨ

男にだまされた母と、肉子ちゃんは漁港の焼肉屋で働いている。太っていて不細工で明るいキクりんは、そんなお母さんが最近少し恥ずかしい。ちゃんとした大人なんて一人もいない。それでもみんな生きている。港町に生きる肉子ちゃん母娘と人々の息づかいを活き活きと描き、そっと勇気をくれる。考えすぎる自分とは対照的に生きる肉子ちゃんに、腹が立ったり、馬鹿らしく思うのは、鈍感に生きられることへの羨ましさだと思う。それだけじゃなくて、太陽みたいな底抜けな明るさと熱い愛で、救ってくれる。もちろん、よくない方向に行ったりもする。血が繋がっていなくても関係無い。ただ大好きだから一緒にいるだけでいいのだ。とても素敵な家族のお話。

HYUUGA（八千代）

『麒麟の翼』

東野　圭吾

27 キリ

阿部寛が主役で映画化されたミステリー。被害者が中井貴一、犯人が？だったのも、今考えるとすごい配役だ。日頃、「厚い本」が苦手な人は、まず、映画・ドラマ化された作品が多い作家から入るのはどうだろうか。東野圭吾はその点で群を抜いた一人である。福山雅治主演、柴咲コウ・吉高由里子等が相棒役のドラマ「ガリレオ」シリーズも放送当時は大変な人気作であった。どの作品も、何かを書けばネタバレになる。後は読んでほしい。

TUKADA（八千代西）

『嫌われた監督』

鈴木 忠平

26 キラ

２００４年から２０１１年の中日はとても強かった。派手な選手はいないが、すごい選手が沢山いた。そのチームの監督をしていたのが現在はYou Tubeでも活動している落合博満である。この本は当時の中日の舞台裏を選手やスタッフ、記者などそれぞれの視点から落合博満という人物を読み解くことができるような本となっている。多くを語らない落合博満の知られざるエピソードを通して、心のあたたかさや信念の強さ、先を見据える力を感じる事ができると思います。

ISOGAYA（八千代西）

『空想科学読本』

柳田 理科雄

28クウ

この本はアニメや漫画の世界の出来事を現実的、科学的に考えるとどうなるかがまとめられています。例えば、「深海一万メートルの水圧に耐えられるドラえもん。いったい、どれほど頑丈なのか？」などの、とてもユニークな話題が多いです。

この本は科学が好きな人、興味がある人はもちろんあまり化学が好きではない人でも面白く読める本です。

ぜひ読んでみてください。

HIRAKAWA（八千代）

29クス

『薬屋のひとりごと』
日向　夏

薬学の知識を元に事件を解決する推理小説、ラブコメファンタジー！中国を舞台にしたなろう系のライトノベル。

話が少し複雑で、多くの伏線がはられているため、何度読み返してようやく「そういうことかー！」となる作品。読み解くのが少し難しいのだが、真理に気づいた瞬間は本当にスッキリするので、読んでみる価値はあると思う。

考察しながら読むのが好きな人にオススメな一冊。

YAMAMOTO（八千代）

30コイ

『恋に至る病』
斜線堂 有紀

主人公宮嶺の恋人は、自ら手を下さず百五十人以上を自殺へ導いた自殺教唆ゲーム『青い蝶』の主催者、寄河景。景は殺人を始める前までは誰からも好かれていた。善良だったはずの彼女がいかにして化物へと姿を変えたのか、宮嶺は、運命を狂わせた”最初の殺人“を回想し始める。

変わりゆく景色に気づきながら、愛することをやめなかった宮嶺が辿り着く地獄とは？暴走する愛と連鎖する悲劇の先には衝撃の結末が待っています。

IWAI（八千代）

31コイ

『恋文の技術』
森見 登美彦

大学院生の守田一郎は、人里離れた研究所に通う寂しさをうめるため、かつての仲間と文通を始めます。親友の相談に乗ったり、妹に説教をしたり、かつての塾の教え子の恋を応援したりー。

守田が本当に思いを伝えたい相手は誰なのか。女性の心を一撃で奪える恋文とはどのようなものなのか。

書簡体小説ならではの形式から見える守田の内側と彼を取り巻く人間模様が、ユーモアたっぷりに描かれています。

最後に、この本の名言を贈ります。「道行く男の四割は阿呆、さらに四割は役立たず、残る二割は変態である。」

SHIBA（八千代東）

32コク

『告白』
湊 かなえ

「愛美は死にました。しかし事故ではありません。このクラスの生徒に殺されたのです」

我が子を校内で亡くした中学校の女教師によるホームルームでの告白から展開される物語。「級友」「犯人」「犯人の家族」と告白していく人物が変わるごとに少しずつ事件の全貌が明らかになっていく。

衝撃的なラストに注目！

SATO（八千代）

33コク

『国際秩序』
細谷 雄一

国際秩序とは、主権国家が集合してつくりあげた体系である。約十年前に著わされた本書は、これから『歴史総合』や『世界史探究』を学んでいく新入生にとって、是非読んでほしい一冊だ。

ヨーロッパ近代史を面として捉え、ウィーン体制・ビスマルク体制・ヴェルサイユ体制等をわかりやすく解説してある。新書を読みこなせる賢い高校生になろう。

NAKAGAWA（八千代）

34ココ

『心を整える。』
長谷部　誠

元サッカー日本代表の長谷部誠選手が書いた本です。心は鍛えるものではなく整えるもの。心の整理をすることで、漫然と感じていたことに自分の意志と理由を明確にできると思います。

年齢に関係なくどんな立場の人が読んでも参考になる内容が書かれています。

HUZII（八千代）

35ゴジ

『52 ヘルツのクジラたち』
町田 そのこ

52ヘルツのクジラとは他の鯨が聞き取れない高い周波数で鳴く、世界で一頭だけのクジラ。たくさんの仲間がいるはずなのに何も届かない、何も届けられない。そのため、世界で一番孤独だと言われている。自分の人生を家族に搾取されてきた女性・貴瑚と、母に虐待され「ムシ」と呼ばれていた少年。孤独ゆえ愛を欲し、裏切られてきた彼らが出会い、新たな魂の物語が生まれる。

SHIBATA（八千代）

36ゴフ

『5分後に意外な結末』
桃戸 ハル

SF、ホラー、ミステリー。くすっと笑える話、ぞっとする話、感動する話。ページにして数ページ。たった五分程度の時間で読めて、最後に「あっと驚くドンデン返し」ばかりです。そんなショートショートを集めたアンソロジー。五分間でできる気分転換。テーマやジャンル共にバリエーションに富んだ本であるため子供から大人まで楽しめる作品になっているため、読書が苦手な人にも最適な一冊になっています。

SORITA（八千代）

『今夜、世界からこの恋が消えても』
一条　岬

37 コン

神谷透はクラスメイトに流されて日野真織に嘘の告白をする。彼女は条件を三つ挙げる。その一つが”お互い、本気で好きにならないこと“。だが、一緒に過ごすうちにこの条件を守れなくなり、透の想いが溢れる。しかし、彼女は眠ると一日の記憶を全て忘れてしまう病気であると知る。一日ごとに記憶を失う彼女と積み重ねていく日々。登場人物の「人を想う心」と想像を超える切なすぎる展開に胸がいっぱいになりました。人は得ることも多いけれど、失っていくことも多い。今の当たり前はずっと当たり前だとは限らない。そんなことを考えさせられる本です。

TUTIYA（八千代西）

『サピエンス全史』
ユヴァル・ノア・ハラリ

38 サピ

現在地球上に生きている人類は、我々ホモ・サピエンスのみです。教養生物を選択している人は学習しましたよね。ホモ・サピエンスが生まれ、生きていたのは今から約二十万年前です。その頃には、ネアンデルタール人や北京原人、ジャワ原人なども同時に生息していた時代でした。それではなぜホモ・サピエンスは現在ただ一種類生き残り、文明を築き、世界を征服できたのでしょうか。「頭がよかったから？」「火が使えたから？」どうやらそのどれでもないようです。

この本は今まで常識だと思っていたことがひっくり返されるような本です。興味を持った人はぜひ読んでみてください。

YAMAZAKI（八千代西）

『ザリガニの鳴くところ』
ディーリア・オーエンズ

39 ザリ

家族に置き去りにされてしまった、年端もいかない女の子がひとりぼっちで自活していくなどあなたに想像できます？街から離れ、野生動物がいる湿地。水道・電気も通っていない粗末な小屋で…。彼女の孤独、焦燥そして悔しさがひしひしと伝わってきます。

そして、時に荒々しく、時にやさしい原初的な自然の姿をこれほど丹念に描写した上、主人公に重ね合わせた小説も他に類を見ないでしょう。また、今、私達に通じる社会に根強く存在し続けている差別・偏見・貧困、家族の抱える問題についても著者は告発しています。

野生動物学者である著者は、「人間が自然から学び、自然と共に生きるとはいったいどういうことか、実のところあなた達は何もわかってない。」読み手としては胸を突き刺されます。最後に、映画を是非ご鑑賞あれ。

SEKI（八千代）

『三千円の使い方』
原田　ひ香

40 サン

「今、三千円を使うとしたら何にどう使いますか？」この質問の答えで、今のあなたの金銭感覚や価値観がわかります。去年から金融教育を学ぶことが義務化されました。生涯を見通した経済計画や資産形成とその運用。そんなの「わからない！」という声が聞こえてきそうです。

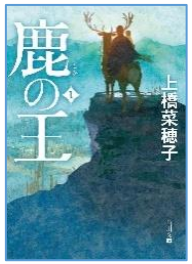
今後直面しそうな問題には必ずお金が絡みます。小説を通して、様々な場面でのお金に関する問題点が疑似体験できます。活字を追いながら、自分もその選択に一喜一憂するでしょう。

他人に聞きにくいあなたの岐路にきっと役立つ、ほっこり家族小説です。

SAITO（八千代）

41 シカ

『鹿の王』
上橋 菜穂子



『鹿の王』は、2015年に本屋大賞を受賞した作品で、アニメ映画も公開された作品です。攻め入ってくる巨大な帝国から故郷を守ろうとする戦士、ヴァン。彼は謎の感染症による恐ろしい光景を目撃し、病の原因を突き止めようとする天才医術師、ホッサルと出会い、二人を中心に人々が過酷な運命と戦う、壮大なストーリーへと展開していくすばらしい作品です。

NAGAO（八千代）

42 シケ

『死刑にいたる病』
櫛木　理宇

「死刑」日本で最も重い刑である。よほどの罪を犯さない限り、この刑を宣告されることはない。しかし、世の中には考えられないような犯罪を起こし、この刑を宣告されるものがいる。本作にも稀代の連続殺人鬼「榛村大和」が登場する。

彼は二十四件の殺人事件を起こしたとされ、死刑の判決が下されている。彼らはなぜそのような凄惨な犯罪をするにいたったのか。本作が描く、それらの犯罪の根底にある心理は意外と私たちが身近に感じているものかもしれない。

気になる方はぜひ読んでみてください。

TANAKA（八千代西）

43 シタ

『下町ロケット』
池井戸 潤

主人公、佃航平は高い技術力で精密機器を手がけ、順調に売上げを伸ばしていました。しかし、京浜マシナリーからいきなり年間十億もの取引を打ち切ると言われ銀行からの融資もなかなか受けられずに苦境に立たされます。ここから、会社を守るための大企業との戦いと新たな挑戦が幕を開ける。

INOUE（八千代）

44 シニ

『死にがいを求めて生きているの』
朝井 リョウ

植物状態のまま病院で眠る智也と、献身的に見守る雄介。二人の間に横たわる〝歪な真実〟とは？

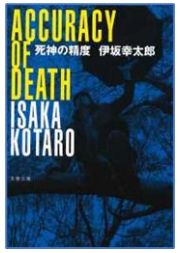
毎日の繰り返しに倦んだ看護師、クラスで浮かないように立ち回る転校生、注目を浴びようともがく大学生、時代に取り残された中年ディレクター。交わるはずのない点と点が、智也と雄介をなぞる線になるとき、目隠しをされた〝平成〟という時代の闇が露わになる！

この本は約四百七十ページ程あるので、読むのが少し大変ですが、それを忘れてしまうほど夢中になって読んでしまうような本となっています。「生きがい」を探し求めて生きている現代の私たちに衝撃を与える作品の一つであると思います。お時間がある方は是非読んでみて下さい。

NAKASHIMA（八千代）

45 シニ

『死神の精度』
伊坂　幸太郎



対象者を一週間調査してその人の死の「可」「否」を判断する。そんな死神が主人公の小説です。テーマに「死」が入っていますが、死神と対象者の会話ややりとりが面白く、暗い感じはありません。小説自体は短編集かつ会話中心になっていてテンポよく読みやすいので読書が苦手な人にもおすすめです。

また、短編同士にちょっとしたつながりもあるので読了後にもう一度、読み直したくなる作品です。

HUZIDA（八千代西）

46 シボ

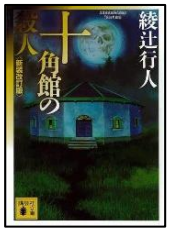
『死亡フラグが立ちました！』
七尾 与史

貧乏出版社のライター・陣内は、オカルト雑誌の編集長の命を受け、「死神」について取材することになり、調べていくうちに、あるヤクザの組長の死が死神と呼ばれる殺し屋によるものだと知った。陣内が破天荒な天才投資家・本宮らとともに、死神の正体に迫っていく一方、退官間近の警部と新人刑事もまた独自に死神を追う。様々な登場人物の視点から死神を追っていくなか、死神はユニークな手段で標的を暗殺する。凶器はなんとバナナの皮!?

HATAKEYAMA（八千代）

47 ジュ

『十角館の殺人』
綾辻 行人



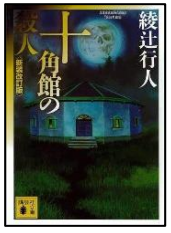
十角館のある孤島を大学の推理小説研究会の七人が訪れる。館を建てた中村青司は半年前に炎上した角島の青屋敷で焼死していて、犯人不明で迷宮入りしていた。一方、本土にいる元大学推理小説研究会の江南の元に一通の手紙が届いていた。

事件が起こる角島と捜査を進めていく本土の二つの視点から書かれています。トリックや犯人がわかった時の衝撃が凄く、とても面白いです。また、この小説は長編推理小説「館シリーズ」の最初の作品でもあるので入りやすいので、是非読んでください。

MIWA（八千代）

48ジュ

『十角館の殺人』
綾辻 行人



二十年前九州にある「角島」に移り住んだ中村青司という男がいた。中村は島に立派な館を建て、妻と使用人夫妻と住んでいた。ところが昨年、中村夫妻、使用人夫妻共に殺害されてしまう。その時館は放火され、母屋は消失、残された離れを「十角館」という。この犯人もわからない、殺され方も特殊な謎に満ちた事件はすぐにニュースとなり、日本中で話題となった。そのニュースをきいた大分にある大学のミステリーサークルの七人。そのうちの一人の伝手で十角館に行けることとなった。島に着いた七人は様々な心情をもちながらもミステリーサークルらしく島を題材にした小説を書くことに。やがて七人に襲いかかる連続殺人。

犯人の心情から始まるこの作品。犯人の気持ちが生ぬるいものではなく、善悪の区別がついていることも理解して読み進んだ先には、誰も予想しなかった結末が。衝撃と現実感を味わいたい人は一度読んでみてください。

YAMAMOTO（八千代東）

49 ジュ

『柔道にはなぜ黒帯があるの？』

稲垣　正浩

武道の歴史は長く、武士が行った体術からはじまり、それが現代まで武道として受け継がれています。柔道に限らず、他の「～道」の世界には、日常生活に役立つ多くの習慣が含まれています。経験が長くなるほど、自分の心と体にその習慣が染み渡り、人格が完成されていく、というのが修行の目的です。

皆さんも、「～道」をやってみませんか？

KONTA（八千代西）

50 ショ

『少年探偵団』

江戸川 乱歩

探偵、明智小五郎とその助手小林少年をリーダーとする少年探偵団たちが活躍する話である。主人公は名探偵明智小五郎ですが、子供だからと言わず一生懸命頑張る子どもたちや大人顔負けの小林少年に特に焦点が当てられています。

怪人二十面相とつながるところがあり、意外な展開が多く読んでいてとても面白いのでぜひ読んで欲しいです。

DAIBO（八千代）

51 ジョ

『常設展示室』

原田　マハ

私は今まで絵に全く興味がなかったが、女優の上白石萌音さんがこの本の帯に、「この本は美術館への招待状だ」と書いていたので、興味を持ち、購入してみた。この本は様々な形でアートに関わる女性たちを、6つの絵画に絡めて描いた短編集。絵画との出会いで登場人物の心情が変化していく様子が書かれている。最後の「道」という章がおすすめ。ものすごく切ないが温かく感動的な話である。この話は東山魁夷の「道」という絵がモデルとなっている。私はこの絵に惹かれてしまい、実物を見るために長野県の東山魁夷館まで足を運んだ。この本に出会ったおかげで、美術館に行く事が楽しみの一つとなった。私の人生に影響を与えてくれた大切な一冊である。

HASHIMOTO（八千代西）

52シロ

『白銀（しろがね）の誓い』

リンゼイ・デイヴィス

映画「テルマエ・ロマエ」とほぼ同時代の古代ローマ帝国を舞台にしたスパイ・ミステリィ小説です。平民のファルコが元老院の娘と結婚し、様々な難関に挑みます。この作品は古代ローマの社会のしきたりや生活を事細かに描いており、世界史の勉強にもなります。（大学のローマ史研究者も愛読しています。）

AKIYAMA（八千代東）

53 シン

『新十二歯考』
田畑 純（まこと）

東京医科歯科大学歯学部所蔵の頭蓋骨標本をもとに、同大学勤務の著者が干支に関わる十二の動物「子（ネズミ）から亥（イノシシ）まで」の歯を語る、というユニークな本である。

歯は動物の摂食行動に必須の器官であり、歯を含めた頭蓋骨を詳細に観察することで、それを理解する重要な手がかりとなることを本書は読者に納得させてくれる。また、興味深いことに、番外として「人（ヒト）」の歯が取り上げられている。

本書は文章が平易でイラストもわかりやすく高校生でも十分理解できる内容だと思う。ぜひしっかりと「咀嚼」しながら読んでいただきたい。

NIMURA（八千代）

54 シン

『「新型コロナ」「EV・脱炭素」「SDGs」の大ウソ』
武田 邦彦

この本の著者は「科学者」と自称している。そして、日頃から「理系思考」が必要だと言っている。「理系思考」とはデータや事実に基づいた論理的な思考のことである。この視点を大切にしている方であるため、時々我々凡人には「は？」と思うような言動をする。私の常識では考えられないことをよく口にするのだ。しかし、じっくりとその話を伺ってみると成る程と思わせてくれる。凝り固まった思考になりたくない人にはおすすめの一冊である。

OOHIRA（八千代西）

55 スイ

『すいかの匂い』
江國 香織

皆さんの夏の記憶といえば何ですか？海、プール、花火、部活。風鈴の音や蝉の声、もっと感覚的なものだと、空気が肌にまとわりつくような暑さ、バニラアイスの木べらの味とか。他の季節よりも鮮明な記憶が多いと思いませんか？

この本は、夏の風物詩である怪談が詩に近い感覚的な文章で描かれています。えっ？とゾッとする話が入った短編集になっているので、読書に抵抗のある人にもおすすめです！

NAKANO（八千代西）

56 スト

『ストラヴァガンザ』
メアリ・ホフマン

「行きたい場所があるのに行けない」
「やりたいことがあるのにできない」
こんな気持ちで悶々としている人はいませんか？

主人公の少年、ルシアンは窮屈な入院生活と薬の副作用にうんざりしていた。ある時、夢の中で、まるで現実のような異世界を発見する。全てが自由…あまりの嬉しさに不思議な世界を冒険し始めるが、当然、代償がつきもので。

イタリアのヴェネチアを思わせる架空の美しい都市を舞台に、スパイや魔法使いが大活躍する物語です。

KOMURO（八千代西）

57 セイ

『正欲』
朝井 リョウ

多様性とは、都合よく使える美しい言葉ではない。自分の想像力の限界を突き付けられる言葉のはずだ。登場人物たちそれぞれの”正しさ“に関する思いが鮮明に描かれている作品。

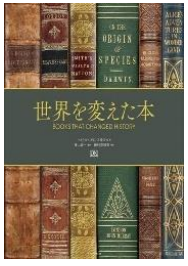
ある事件を軸に登場する人物はそれぞれ異なったどうにもならない気持ちを抱えるわたしたちと重なる。

ぜひ筆者の言葉で感じとってほしい。

MOTIZUKI（八千代）

58 セカ

『世界を変えた本』
マイケル・コリンズ



中世の彩色飾本から『星の王子さま』、古典の授業で取り扱う『源氏物語』まで、八十冊の名著を貴重な写真と共に解説した“本の本”です。内容、装丁、デザイン、当時の印刷技術など、様々な観点から歴史を知ることができます。

図鑑に近い形態をとっているため、文章を読むのが苦手な方でも視覚的に楽しめる一冊になっています。

TAKASE（八千代）

59 ソダ

『「育ちがいい人」だけが知っていること』
諏内　えみ

必ず「お」をつけたい言葉と言われて、思い浮かぶものはありますか？

恥ずかしながら私は「お馬鹿」と瞬間的に思ってしまいました。すでに育ちの悪さが出ていますよね。社会に出て十年が経とうとしていますが、正直言ってマナーというものを意識的に学んだことはありませんでした。それ故恥ずかしい思いもたくさんしました。この本は気軽に読めますし、友達同士クイズ形式で話してみてもおもしろいですよ。少しやり過ぎではと思う部分もありましたが、これから大人になる、社会に出るみなさんの役に立つ本です。是非手にとって、必ず「お」をつけたい言葉の答え合わせをしてみてください。

OOISHI（八千代西）

60 タス

『タスキメシ』
額賀 澪

陸上の名門高校で長距離選手として将来を期待されていた高校3年生の眞家早馬は、右膝の骨折という大けがを負い、リハビリのために部活を休んでいる。ある日、ひょんなことから調理実習部の存在を知った早馬。たったひとりの部員・都の手伝いをすることになったのだが、いつのまにか料理の世界にのめりこんでいく。一流の陸上選手を目指すには限界を感じた早馬は、陸上を引退し、同じ長距離選手である弟の春馬を料理の面でサポートすることにした。そして、それぞれの熱い思いが交錯する駅伝大会がスタートする。弟・春馬の才能への嫉妬、自分の限界を感じるくやしさ、葛藤、スポーツを愛する心と成長の熱い物語。

HUZINAGA（八千代）

61 チキ

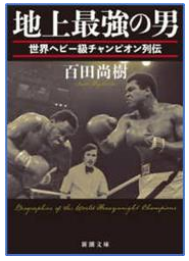
『地球の長い午後』
ブライアン・W・オールディス

この物語の舞台は、遥か遠い未来、自転をやめ、一方は永遠の昼、そして一方は永遠の夜が続く地球。この地球では、文明は廃れ、植物が繁茂し、そして人類はかつての住処、木の上で細々と生活していた。グループから追放された少年、グレンはこの危険な世界で新たな仲間、新たな生活の場を求めて、不思議なキノコ、アミガサダケと共に放浪する。ジャンルとしてはSFだが、世界観は"過酷なファンタジー"に近い。独自の進化を遂げた様々な植物、様変わりした地球の姿には、想像を膨らませること必至。「読書」の楽しみをぎゅっと凝縮させた本書を、是非読んでみてほしい。

KATO（八千代）

62 チジ

『地上最強の男』
百田　尚樹



ボクシングの世界ヘビー級歴代チャンピオンの話である。著者の百田氏は自身も大学の頃ボクシングをやっていた。また、ボクシングが題材の『BOX』という青春小説を書いている。（これもまた面白い、こちらもぜひ読んで欲しい）これはスポーツ史なのだが、人種差別や裏社会との関係などアメリカの歴史の一面を描いたものでもある。その中でのチャンピオンたちの人間ドラマが素晴らしいのだ。事実は小説より奇なり、人間ってやっぱり凄いなぁと感じることが出来た。是非読んで欲しい（ちょっと長いけどね）。

HASEGAWA（八千代西）

63チユ

『中国化する日本
日中「文明の衝突」一千年史』
與那覇 潤

「世界で最初に『近世』に入った地域はどこでしょうか」「ルネッサンス期のイタリア？全然違います。正解は、宋朝の中国」「宋朝中国のしくみを日本に導入しようとした革新勢力が、後白河法皇と平清盛の強力タッグ」「守旧派勢力である源氏（ワースト・サムライ？）のほうが勝ってしまって始まったのが、日本の中世」

大学教員による、毒舌！日本史講義録。口語を活字化した平易な文章。でも読んだら中学歴史が大学史学科レベルに飛躍？「覚える」から「考える」歴史への一冊。

UDAGAWA（八千代東）

64 チン

『沈黙』
遠藤 周作

江戸時代初期の日本に派遣されていたイエズス会の神学者フェレイラが棄教したことを知らされた弟子のロドリゴは、同僚のガルペと共に、真実を知るためキリシタン禁制の厳しい日本に潜入した。そこで日本人信徒たちに加えられる悲惨な現実を目の当たりにし、次第に背教を迫られていく。12歳の時カトリック教会で受洗している、作者・遠藤周作が「神の沈黙」という永遠の主題を、17世紀の日本の史実、歴史文献に基づき創作した歴史小説。第二回谷崎潤一郎賞受賞作。

NAGATOMI（八千代）

『月の立つ林で』
青山 美智子

65ツキ

自分の現状が苦しくなり看護士を辞めた冷花。芸人を目指しコンビを組んでいた相手に裏切られたと感じている繁太郎。二輪車工場の高羽は、大事な一人娘にさっさと嫁に行かれ、未だに不満だ。高校生の那智は、学校生活にも日常にもなじめない。そしてアクセサリー作家として成功をつかみたい睦子。それぞれが、日常に小さな不満を抱えている。

「ツキない話」という月の様々な話が発信される無料のポッドキャストがつなぐ5篇の連続短編集だが、月に関わる話の裏側にも物語がある。一篇一篇読み進めると、人の優しさや柔らかさが伝わってくる。

KUDO（八千代東）

『ドア D』
山田 悠介

67 ドア

仲間の誘いで大学のテニスサークルの飲み会をすることになった、同級生の八人。飲み会後、それぞれの自宅に帰宅したはずが、気が付いたら密室の光のない部屋に閉じ込められていた。部屋は全部で七つあり、どうやらこの部屋を脱出するには誰か一人の命を犠牲にする必要があった。八人のメンバーなのでたった一人しか助からない状況の中で生き残るのは誰なのか…。ハラハラが止まらないホラー小説！

KOUSAKA（八千代）

『デザイナーのための折りのテクニック』
ポール・ジャクソン

66 デザ

紙を折る。それだけでデザインができあがる事を、あなたは知っていますか？いったいどんな折り方があるのだろう？と本書をめくってみましょう。たくさんの複雑で魅力的な形ができあがる事に、あなたは驚愕するはずです。なんと折りの技術は、最新のドレスや家具、コンサート会場のデザインにも応用されています。この本は折りの入門書。マスターすればあなたもトップデザイナーになれる、かも!?

NISHIKAWA（八千代西）

『図書館の魔女』
高田 大介

68 トシ

世界のありとあらゆる文献を網羅した世界最古の図書館『高い塔』。その塔に暮らすマツリカは、『魔女』として畏れられ、本のページを繰り、言葉を操っていた。主人公キリヒトは、そんな彼女の手話通訳としてマツリカのもとへ参ず。そして、二人はある小さな発見をする。地下が空洞になっていたのだ！その発見は些細なことに思われたが、それは歴史を動かすきっかけとなるのである。そして、少年キリヒトの『本当の役目』とは？

OOHIRA（八千代）

69 ナツ

『夏、19歳の肖像』
島田　荘司

バイク事故で足を骨折し入院生活を送っている青年が、病室の窓から見える家に住む美しい女性に心を惹かれる。

ある日、その女性が父親から殴られる場面を目撃する。数十分後、再び見ると、父親の背後に立つ女性。女性の手には包丁が……。

ヒッチコックの『裏窓』を思わせる序章。しかし、その後の展開はミステリーというよりも青春小説の趣が濃くなる。

そして、最後に主人公が知ることになる真相とは……。

N　（八千代西）

70 ナミ

『ナミヤ雑貨店の奇蹟』
東野　圭吾

強盗をし、逃走中の翔太、敦也、幸平は、夜が明けるまでの隠れ家として、あばら家へと向かった。そこは「ナミヤ雑貨店」という、古びた誰もいない雑貨店だった。三人はそこで一夜を過ごそうとするが、突然一通の手紙が届く。それは誰もいないはずのナミヤ雑貨店へのお悩み相談の手紙だった。手紙の内容は悩み相談なのだが何かがおかしい。それに三人が気づいたとき、驚きの事実が発覚する。

自分にとって大切な決断だからこそ一人では決められない。相談者、回答者の思いが交錯する心温まるお話。ぜひあなたも読んでみてください。

MAEDA（八千代）

71 ナミ

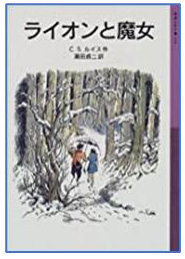
『ナミヤ雑貨店の奇蹟』
東野　圭吾

どんな相談にも真剣に答えてくれる雑貨店ナミヤ雑貨店を舞台に、過去と未来をつなぐ手紙によって人生が変っていく人々の奇蹟の物語が描かれていて心温まるストーリー。主人公がその都度変わる連作短編集のため、物語の視点が変わっていきますが、しっかりと繋がっていき全く飽きさせません。「今までこの作品を読んでこなかったのはもったいなかった」と思えてきます。

NAKAYAMA（八千代）

72ナル

『ナルニア国物語』
C･S ルイス



私が皆さんにお薦めする本は『ナルニア国物語』（全七巻）C・Sルイス作、ポーリン・ベインズ絵、瀬田貞二訳です。児童文学ですが、私が大きな影響を受けた作品です。映画化されたので見たことがある人もいるかもしれませんが、是非挿絵、訳ともこのお二方で読んでください。生きることとは、死ぬこととはどういうことかを、私はこのシリーズを読み始めて考えました。その時の問いの答えは、五十年経っても未だにみつけることができません。

HASHIMOTO（八千代西）

『眠れなくなるほど面白い社会心理学』

73 ネム

亀田　達也

社会の中で人々がなぜそう感じ、どうしてそのように行動するのか、心理学の視点で心の動きや行動を説明している本です。ひとつのテーマごとに見開き２ページで書かれていて読みやすく、各テーマは「見て見ぬふりをするのはなぜか?」のように身近で興味深いものばかりです。内容は真面目な心理学の解説ですが、具体例や図を使って説明したり、理解しやすい工夫がなされています。心理学に関心のある方にお薦めします。

ＩＩＺＵＫＡ（八千代西）

『脳が壊れた』

74 ノウ

鈴木 大介

四十一歳の時に突然の脳梗塞に襲われた、取材記者の作者。命は取り留めたものの、その後の障害の不自由感や辛さや当事者感覚を言語化して本になっています。同じ病気で苦しい思いをしている、本人、家族、支援者の人達にとって、深刻なのに笑える感動の闘病記です。

ＹＡＭＡＺＡＫＩ（八千代）

『ハウルの動く城』シリーズ

75ハウ

ダイアナ・ウィン・ジョーンズ

この本は皆さんもよく知っているジブリのハウルの動く城の元となった『魔法使いハウルと火の悪魔』とその続編『アブダラと空飛ぶ絨毯』『チャーメインと魔法の家』の三冊シリーズです。それぞれがハウルの動く城とは違う世界観から始まるものがたりなのですが、実はハウルがすべてにかかわっているのです。

物語を最後まで読み終えた時のなるほど、という爽快感をこの三冊がどう繋がっていたかを何度も読み返したくなる面白さがある作品です。ぜひ三冊揃って読んで自分のお気に入りのハウルに出会ってほしいと思います。ちなみに私のお気に入りは『チャーメインと魔法の家』です。

ＭＡＳＨＩＫＯ（八千代東）

『浜村渚の計算ノート』

76 ハマ

青柳 碧人

全ての数学が好きな人たちと、そうでもない人たちに贈る、数学ミステリー。舞台は、政府によって、数学が義務教育から数学が排除されてしまった世界。その政府の行動に対して、「黒い三角定規」という数学テロ組織が反発し、様々なテロを行っていく。このテロが数学を利用した高度なものばかりで警視庁の「黒い三角定規・特別対策本部」は頭を悩ませていた。そこで現れたのが、天才的な数学の能力を持つ浜村渚だった。

ＹＡＢＥ（八千代）

77 ハリ

『ハリーポッターシリーズ』
J.K.ローリング

映画を見たことはあるが本を読んだ事がないという人が多いと思う。そのような人々に私はオススメしたい。何故かと言うと映画と本では内容が変わっていたり、尺の関係上描写されなかった所があるからだ。映画を先に観ていると魔法を想像しやすいため読みやすいと思うので是非とも一度読んでもらいたい。

TAIRA（八千代）

78 ハル

『春の雪』
三島　由紀夫

「美しさとは」「苦しさとは」

美しいものを追い求めることは人にとって本当に幸せなのだろうか？

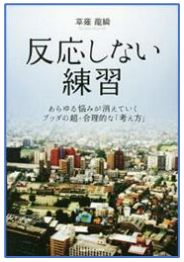
私を含め、人間は美しい存在にあこがれ、自分を磨き、またその存在に焦がれる。しかし、自分の醜い部分に気がついた時、あるいは、美しい存在が手に入らなかった時、我々は苦しさを覚えるだろう。しかし、その苦しさが美しい。この物語を読み、私は初めてそう思った。

苦しみに詰まった物語に映る、美しい世界の様相を是非、ご覧ください。

EZAWA（八千代西）

79 ハン

『反応しない練習』
草薙　龍瞬



ブッタと聞いて皆さんは何を思い浮かべますか？多くの人は仏教の祖と答えるでしょう。宗教に興味がないという人も少し待ってください。本書は仏教そのものではなく、その源流に根ざすブッタの超・合理的な「考え方」を紹介します。この実用的で、無駄のない、現代でも使える「考え方」を身につけることで、多くの人が抱える悩みを解消することができるようになります。

KONISHI（八千代西）

80 ヒト

『「人それぞれ」がさみしい 「やさしく・冷たい」人間関係を考える』
石田 光規

この本は、私が「多様性」という考え方に賛成しつつ、同時にどことなく抱いていた違和感やモヤモヤ？を言語化してくれた一冊である。「多様」であることや「人それぞれ」であることを、当然のように、無批判に受け入れてよいのだろうか。「人それぞれ」であることに息苦しさを感じている人は本当にいないのか・・・。

この本が教えてくれるのは、人間関係における課題だけではない。身の回りにたくさんある「当然のこと」に対し、「本当にそうなのか？と疑いの目線を向ける機会を与えてくれるのだ。だからこそこの本は、「多様性」という言葉を手放しに多用・乱用している人にこそ強く勧めたい。

ASADA（八千代）

81ヒト

『人は話し方が9割』
永松 茂久

家、学校、習い事、バイト、仕事、人はみんな生活していく中で、必ず誰か人と関わりながら生きています。そして毎日、色んな人と話す機会がたくさんあるでしょう。初代面で何を話せばいいのかわからない、会話がすぐに途切れてしまう、話の盛り上げ方がわからない、人と会話する上でこのような悩みを持ったことがある人は多いのではないでしょうか。そんな悩みを持つ人に私はこの本をおすすめします。

まずこの本では、「会話が下手な人は、自分が大好きな人との会話を増やす」その中で少し話し方のコツを身に着けるだけで話し方が上手くなると書かれています。そして具体的に、話し方が変わる三つのコツや話の拡張法、話のネタ、他にも聞き方や嫌われない話し方などが書かれています。

この本であなたは話すのが好きになり、きっとたくさんの人に恵まれるでしょう。

HIRANE（八千代東）

82ヒニ

『否認』
堀田 力

否認は、京都府出身で東京地方検察庁の特別捜査部の検事を歴任した弁護士の堀田力氏が書いた法廷サスペンスです。父親が会社のために贈賄罪で逮捕起訴され、その父の身を案ずる娘とその弁護に当たる青年弁護士との揺れる心情を描いています。否認との闘いである汚職事件の捜査を通して、被告人とその家族、企業の思惑、法廷での息詰まる攻防を描写した恋愛小説であり、起訴から公判までが長い作品ですが、被告人とその娘、弁護士の心理を見事に描いた作品です。

OKUYAMA（八千代西）

83フル

『古畑任三郎』
三谷 幸喜

三谷幸喜が脚本を担当した傑作刑事ドラマ、「古畑任三郎」のノベライズ。

犯人の視点でストーリーが進行する倒叙ものとして名高い。卓抜した観察眼で誰よりも早く犯人を見抜き、論理的な推理で着実に犯人を追い詰める。最初から犯人が我々には分かっており、古畑も犯人にアタリをつけているため最大の見せ場は証拠をつきつけるシーンになるのだが、どれも思わず膝を打ってしまうような出来となっている。

ドラマも観ればニ度楽しめる。田村正和氏の名演はぜひ一度見てほしい。

TACHIHARA（八千代）

84ボク

『ぼくはイエローでホワイトでちょっとブルー』
ブレイディ みかこ

英国で暮らす「ぼく」の中学校生活最初の一年半を綴りながら、母である著者が英国だけでなく世界に蔓延る社会問題を問う本。人種差別的な発言を繰り返す友人とどう付き合っていくか、家が貧しく擦り切れそうな制服を着ている友人にどう傷つけずに制服を渡すかなど、様々な出来事をまっすぐ受け止め、悩みながらも自分で考え行動していく姿に感嘆するだけでなく、もし自分だったらどうするか、とても考えさせられる作品である。多様性やアイデンティティとは？読んでいるとスッと内容が入ってきてとても読みやすい。グローバル化してゆく世界を歩んでゆく現代人は是非一回読んでみてほしい。

KUMAMOTO（八千代）

85 ホシ

『星の王子さま』
サン＝テグジュペリ

地球に降り立った王子さま。見慣れないものばかりで戸惑うも、キツネや「ぼく」との友情を育む中で、「本当に大切なものは目には見えない」ということに気付きます。例えば、人との繋がりです。私は家族や友達、多くの人と繋がり、支えられています。皆さんはどうでしょうか。そんなことを考えさせられる本です。ぜひ読んでみてください。

TAKAHASHI（八千代）

86 ボッ

『坊っちゃん』
夏目　漱石

「親譲りの無鉄砲で子供の時から損ばかりしている。」という有名な文からはじまる夏目漱石の代表作のひとつです。東京育ちの坊っちゃんが四国松山に教師として赴任し、「赤シャツ」「山嵐」「野だいこ」などといった個性豊かな教師たちとのやりとりがユニークに描かれています。実は、漱石自身が松山で教師をしていた経験があり、そこから生まれた物語だそうです。ぜひ一度手にとってみてください。

UZAWA（八千代西）

87 ボブ

『ボブ・ディラン全詩 302 篇』
ボブ・ディラン

愛読書というのではありません。二十代の後半に読んで、または聴いてとても心を動かされたという本（？）です。一定年ごとに改定されて増えていくので、もう3～4刷くらいにはなっていると思います。まだ存命で活躍しているシンガーなので。その初期の作品、「あらましの墓標銘二篇」という長い作品の最終段に私の人生観を変えたと言っていい、このような一節がありました。

「さびしいか？たしかに　でもわたしのさびしさを　むかえてくれるのは花だ花の鏡だ　そしてわたしのさびしさは強烈だ深くまで溶け　わたしの自由の奥底にはいる　それはその時に　わたしのうたとしてのこるだろう」この言葉がいつまでも、私の心に染みついて離れません。そういう詩集です。

OGAWA（八千代西）

88ホン

『本好きの下剋上
司書になるためには手段を選んでいられません』
香月　美夜

皆さんは、読書が好きですか。この本の主人公マイン（本須麗乃）は本が好きで司書になったのに、ちょっとしたことで死んでしまい、気が付いたら異世界転生していた、という話です。転生した世界には本がなく、どうしても本を読みたい主人公は自分で本を作れば良いと考え、作っていく話です。この本はその他にも色々な事を学べるので、一万ページ以上の長い作品ですが、ぜひ読んでみてはいかがでしょうか。

YAMASITA（八千代東）

89 マキ

『牧野富太郎の恋』
長尾 剛

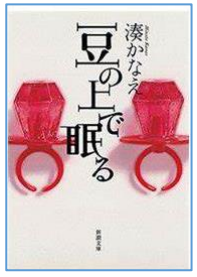
学歴が無いながらも、植物の研究に没頭した牧野富太郎。その生涯に発見した新種植物は、六百点あまりで、命名した植物は千五百に上ると言われる。しかし、研究に没頭するあまり生家の財産を使い果たし、各方面に敵を作り、さらには多額の借金を背負い込むことにもなってしまった。そんな富太郎を支え、牧野家を守り抜いたのは、妻の「壽衛」（すえ）であった。

「日本の植物学の父」といわれる牧野富太郎の偉業は、献身的に支えた妻の存在があればこそ成り立ちえた。異能の学者の夫婦愛を描いた〝植物学の父〟のもうひとつの物語。

KOBAYASHI（八千代）

90 マメ

『豆の上で眠る』
湊 かなえ



小学三年生の安西万祐子は、妹の結衣子と遊びに行った帰りに行方不明になる。二年後、様々な噂や憶測が飛び交う中、万祐子を名乗る少女が突然姿を現す。家族が皆安堵する中、結衣子だけが違和感を抱いていた。そのまま大学生になった結衣子は帰省した際、万祐子の友人遥に出会い、彼女の額にある傷を見て胸が騒いだ。その傷は姉のものであるように思えたのである。あの時帰ってきた万祐子は本当に姉だったのか。姉妹とは何なのか。

衝撃の姉妹ミステリー！

NAKAGAWA（八千代）

91 マヨ

『真夜中乙女戦争』
F

大学進学のため、上京してきたひとりの青年〝私〟は一人暮らしの生活費を貯めるため、夜中バイトをしながら孤独で無気力な生活を送っていた。しかし、ある日〝先輩〟と〝黒服〟に出会い、今までの生活が一変する。そして「真夜中乙女戦争」という計画に巻き込まれていく。

私はこの本を読んでタイトルだけだとよくわからなかった。読んでいくうちに内容はすごく難しかったが、先輩や黒服が何を企んでいるのか、私自身の気持ちの変動など、この話を楽しむときのポイントになった。果たして、先輩、黒服、そして私はどういう企みをし、どういう行動に出るのか、ぜひ読んでみてください。

MAEDA（八千代）

92 マン

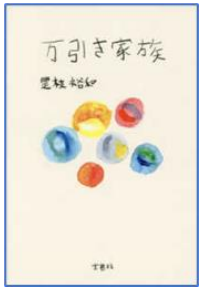
『満月珈琲店の星詠み』
望月 麻衣

「当店では、ご注文を伺いません。その代わり、私があなた様のためにとっておきのスイーツやフード、ドリンクを提供いたします。」満月の夜にだけ現れる不思議な珈琲店。マスターの占星術「星読み」と、美しく絶品のスイーツで、悩みを抱える人達の心を溶きほぐしていく。美しいイラストと共に語られる物語に、読者の心も和む、優しさに溢れた一冊です。

ZYODA（八千代）

93 マン

『万引き家族』
是枝　裕和



東京の下町で、生活していくために万引きをして暮らしている家族に焦点を当てたお話です。ある日、息子の祥太は店主の一言をきっかけにある行動に出ます。本当の幸せとは・・・家族の形とは・・・あなたにとっての「家族とは何ですか？」是非読んでみて下さい。

MORIKI（八千代西）

94 ミツ

『三日間の幸福』
三秋 縋

幼い頃に小学校で考えた命の価値。そんなものは全然当てにならなかった。なぜなら俺の寿命の査定価格は一年につき一万円だったからだ。寿命の査定価格を聞き、未来に希望が無いと知った主人公のクスノキは寿命の大半を売ることにした。これは、クスノキが監視員のミヤギと過ごす最期の三ヶ月の物語。二人が選んだ結末は…。最後まで展開が読めず、ドキドキするようなお話です。ぜひ読んでみてください。

TYUUMA（八千代）

95 ミツ

『密室黄金時代の殺人』
鴨崎　暖炉

「密室の不解証明は、現場の不在証明と同等の価値がある」密室殺人が起こっても、密室を作った方法がわからなければ、犯人を逮捕することはできない…という世界観でのお話。もちろん現実はそうではありません。この特別な世界観で、雪山の旅館で密室殺人が起こりまくるというお話。「このミステリーがすごい！」受賞作品を手直ししたもので、面白く読みやすい本です。

MATUMOTO（八千代西）

96 ミノ

『身のまわりのありとあらゆるものを化学式で書いてみた』
山口　悟

全ての物質は原子からできています。その原子は元素記号を使って表わすことができます。水素はＨ、鉄はFeというやつですね。身の周りの物も当然、その記号を使って表わすことができます。いわゆる化学式ですね。この化学式を見ると、含まれる原子が分かるので、とても楽しいです。また、なぜ臭うのか、なぜ虫歯になるのか、なぜ石鹸で汚れが落ちるのか等、様々な現象についての解説もあるので、化学の勉強にもなります。ぜひ読んでみて下さい。

ISONO（八千代西）

97 モク

『木曜日の子ども』
重松 清

七年前、旭ヶ丘の中学校で起きた、クラスメイト九人の無差別毒殺事件。前の学校でひどいいじめに遭っていた晴彦は、毒殺事件の犯人・上田祐太郎と面影が似ているらしい。この夏、上田は社会に復帰し、ひそかに噂が流れる―。世界の終わりを見せるために、ウエダサマが降臨した。やがて旭ヶ丘に相次ぐ、不審者情報、飼い犬の変死、学校への脅迫状。そして再び、「事件」は起きた―。

AOKI（八千代）

98 モク

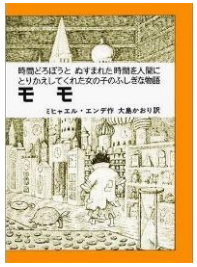
『木曜日にはココアを』
青山　美智子

ココアは好きですか？私は疲れたなと感じた時、ココアの甘い香りと味に癒やされています。この本は読み進める毎にほっとした気持ちにさせてくれたり、時には思いがこみ上げ、目頭が熱くなるような物語で溢れています。個性豊かな登場人物が数多く出てくるのですが、それぞれの出来事につながりがあるところもポイントです。また、本のカバーにも工夫がされているので注目して見てください。

MATUMOTO（八千代西）

99 モモ

『モモ』
ミヒャエル・エンデ

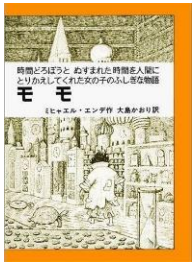


この物語は、不思議な少女モモが街の人々が奪われてしまった「時間」を時間どろぼうから取り返す、というお話です。人々は限りある時間に追われかつての友人と過ごすこともなく、働き続ける生活を送ります。仕事に追われた街の人々は次第に幸せを失っていきます。時間には限りがあります。みなさんがその時間をどのように使うか、この本を通してぜひ考えてみてください。

UEHARA（八千代）

100 モモ

『モモ』
ミヒャエル・エンデ



あなたは今、日々の生活にゆとりを持てているだろうか？もし時間に追われて生きている感覚があるのならば、ぜひこの本を手にとっていただきたい。

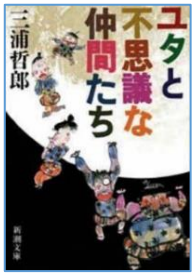
時間どろぼうと盗まれた時間をとりもどす少女を描いたこの本は児童文学に分類はされるが、大人が読んでも考えさせられる内容である。

忙しいという漢字は心を亡くすと書くが、忙しく生きる今の世の中でこそ、この本を通じて、日々の在り方、時間への認識を見つめ直してみるのも良いのではないだろうか。

IKEZAWA（八千代西）

101 ユタ

『ユタと不思議な仲間たち』
三浦 哲郎



こちらは劇団四季でも上演された作品です。物語の舞台は、苦しい現実を元にし、二時間弱でスラスラ読め、入り込んでしまう程、愉快に描かれています。主人公は、ひょんなことから座敷わらしに出会い時間を共有していきます。「あたり前」があたり前ではない今日の世の中だからこそ、人や物に対する思いやりを持ち続け、世界の平和を願いたくなる…そんな作品です。心がなくなった。と感じたら、是非お読みください。

TOMITA（八千代）

102 ユメ

『夢をかなえるゾウ０』
水野　敬也

自分は何が好きなのか。これから何をしたいのか。真剣に考えたことはありますか？この本では、ガネーシャという神様が「自分自身とどのように向き合えばいいのか」を様々な課題を通して教えてくれます。「自分の夢って何？」「やりたいことが分からない」そんな人にはぜひ読んで欲しい本です。ただの自己啓発本ではありません。ガネーシャと、バクと一緒に主人公が成長していくストーリーがとにかく面白く、一気に読めてしまいます。

O（八千代西）

103ユメ

『夢をかなえるゾウ 4』
水野 敬也

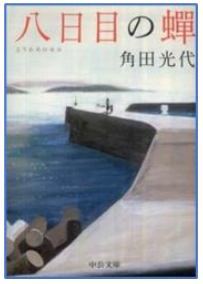
突然余命三ヶ月と宣告されたサラリーマン。残りの人生をどういきていくのか。そんなことを考えていたら、目の前に突然現れたゾウ・・・。その名はガネーシャ。彼はゾウと一緒にいくつのも課題に取り組んでゆく。

目まぐるしいスピードで成長してゆくサラリーマン。そして彼に待ち受けている衝撃の展開とは。

ITABASHI（八千代東）

104 ヨウ

『八日目の蝉』
角田　光代



「誘拐」という犯罪が軸となっている話。犯人は、誘拐した女の赤子を逮捕されるまでの四年間、無償の愛を注いで育てた。犯罪者ではあるが、とても心優しい女性であり、誘拐に至る事情を知ると、「捕まらないで逃げてほしい」と思ってしまう自分に驚く。被害者の女の子も21歳になり、不倫で子を宿すが、誘拐されていた四年間、愛情を一杯もらった四年間を思い出し、子への母性愛が満ちる。とても切なく、胸が苦しくなる作品である。

EBIHARA（八千代西）

105 ヨメ

『余命10年』
小坂 流加

数万人に一人という不治の病を患う二十歳の高林茉莉は、余命が十年であることを知り、生きることに執着することがないように、絶対に恋をしないと固く心に誓う。
地元で開かれた同窓会に参加した茉莉は、そこで真部和人と出会う。恋だけはしまいと決めていたはずの彼女だったが、次第に和人に惹かれ、その運命も大きく動き出す。

OGIWARA（八千代）

106 リユ

『流星の絆』
東野 圭吾

小学生の三兄妹は夜中に流星群を見るためこっそり外出するが帰宅すると両親が殺されていた。「誰も信用出来ない。自分たちで犯人を見つけて絶対にぶっ殺そうな。」
大人になり詐欺に手を染め生きていた兄妹は偶然父親が作っていたハヤシライスと同じ味を見つける。そこの洋食店経営者はあの日家からでてきたところを目撃した人物だった。
兄妹は犯人を捕まえることが出来るのか、この人物は本当に犯人なのか。最後まで犯人が分からないので推理しながら読むことも出来る作品です。

TAKAGI（八千代）

107 リン

『臨床の砦』
夏川　草介

新型コロナウイルスへの対応に追われる、医師や看護師の物語。作者は現役のお医者さんで、『神様のカルテ』という本で知られている方です。医師として診察に当たった作者が物語に仕上げているので、濃厚接触者になったときのショックや、院内感染の混乱や、受け入れを拒む他の病院への思いがひしひしと伝わってきます。重いテーマですが読みやすく、医療従事者の現状が伝わってきます。この大変な状況の中で、診察しながら執筆した作者には本当に頭が下がります。

YOSHIUE（八千代西）

108 レイ

『冷静と情熱のあいだ Blu』
辻　仁成

どうして男はこんなに未練がましいのだろう？好きになった女性のことを忘れられずにいるのだろう？自分にも経験があるだけに読むうちに切なくなってくる…。
主人公、阿形順正はかつての恋人あおいと何気なく交わした約束「私の30歳の誕生日にドゥオモのクーポラで会おう。」あおいが目の前から姿を消してもずっとこの約束を忘れられずにいる。十年後、いよいよその日はやってくる。果たしてあおいは順正の前に現れるのか…。
２００１年に竹之内豊主演で映画化された小説です。映画を観る方は小説を読んでからをお薦めします。

MATUMOTO（八千代西）

109 ロク

『六人の嘘つきな大学生』
浅倉　秋成

映画化、舞台化、さらに漫画化が決定。新世代の青春ミステリ。本屋大賞受賞。

就活が舞台で、最終選考に残った六人が人生をかけたせめぎ合いを繰り広げる。緊迫感ある進展はある出来事により凄まじい展開を迎える。誰が犯人か、六人がどんな裏の顔を持つのか、だんだんと発覚していくところは緊張感がある。新たな嘘や事実が判明するたびに二転三転するそれぞれの印象。それを収束させていった結末への展開は鮮やか。物語の後半で語られた胸熱な伏線回収劇も圧巻。心理描写の妙に最後の最後まで翻弄されガッツリと惹きつけられた一冊だった。

KURATA（八千代西）

110 ワタ

『わたしはあかねこ』
サトシン

小さなこどものために購入した絵本ですが、おすすめです。白猫母さんと黒猫父さんから産まれたあかねこは、自分の赤い毛がお気に入り。しかし両親は、あかねこはなぜ白や黒の毛ではないのかとため息をついているし、きょうだいはかわいそうと言ってきます。そしてあかねこは…。さらっと読めますが、語られていない部分も含めて想像すると、いろいろ考えさせられます。家族やあかねこはどうすれば良い関係を築けたのか。私はそんな視点でみてしまいます。

W　（八千代西）

八千代市内県立高校3校の生徒と先生がすすめる本
2023年版

2023 年（令和5年）7月15日発行

編集　千葉県立八千代高等学校　図書委員会
協力　千葉県立八千代東高等学校　図書委員会
　　千葉県立八千代西高等学校　図書委員会